

査では、hurtが *furious*-type のパターンをとった例は一例もない。confusedにはひとつだけ例がある。

(17) These pilgrims must have been *confused* to discover that even the main Buddha statue had been transformed into one of Shiva.

(この巡礼者達はメインのブッダの像でさえシバ像に変えられてしまっていたのには困惑したに違いない)

インフォーマント調査では、

(18) 6-3-8 John was *confused* to be told to do so many things at once.

のような結果で、John was *confused* at being told. . . / It *confused* John to be told. . . / John was *confused* after having been told . . . のようにするべきであるとか、non-nativeの英語だろうというコメントがある。

hurtについても同様の反応で、

(19) 7-2-8 John was *hurt* to be insulted.

という結果である。It *hurt* John to be insulted./ John was *hurt* by the insult./ John was *hurt* by being insulted. などがよいとするコメントがある。中にひとり John was *hurt* to hear himself insulted. とすればよいという人がある。これはto不定詞を従えた形で、hurtはto doを従えることがないとは断言できないことを反映していると思われる。

このように個々の形容詞を見てゆくと、あるパターンをとるかとは断定できないことが多い。これは語の意味の解釈のしかたと深く関わっていることの反映であると言える。

3 英米の学習辞典における形容詞の取り扱い

LDCE³、OALD⁵、CIDE、RHWDなどは通常形容詞を3つのタイプにわけた。LDCE³を例にあげる。

(A) actualのように名詞に前置するもの：a big difference between the opinion polls and the *actual* election results

(B) galoreのように名詞に後置するもの：There

are bargains *galore* in the sales this year.

(C) advisableのように名詞の前には置かないもの：For heavy smokers, regular medical checks are *advisable*./ It is *advisable* to disconnect the computer before you open it.

COB²は6つのタイプに分けているが、以下に示す(D)(F)に属する形容詞の数は限られている。

(A) 名詞に前置するもの：the *governmental* agency for providing financial aid to developing countries (発展途上国に経済援助を提供する政府機関)

(B) 通常は名詞に前置するもの：the *then* president/ the *former* president

(C) unwellのように連結動詞の後にくるもの：She was feeling *unwell*.

(D) barefootのように動詞の後にくるもの：Alan came running *barefoot*.

(E) properのように名詞に後置するもの：a trade union leader not a politician *proper*

(F) certainのように限定詞 + 形容詞 + 別の形容詞または名詞：a *certain* limited geographical area

本稿で論じているのは形容詞の叙述用法のパターンであるので、このような情報は直接関係がない。辞書ではどのようなパターンをとるかは用例によって示されていることになるが、よく使われるようなパターンの例が示されていないことは往々にしてある。これはネイティブ・スピーカーにはパターンの認識が低いことが原因と考えてよい。

英米の学習辞典では、形容詞がどのような統語形式で使われるかは用例で示すのが通常であるが、ネイティブ・スピーカーにはパターンの認識が明確でないので、よく使われる統語形式が用例で示されていない場合がある。いずれにしても、どの形容詞がどのパターンをとるかというのは十分な検討が必要であり、形容詞分類の前提である。だが実際には、意味特徴の現れとしてのパターンの関係は、あるパターンをとるからこういう意味特徴をもっているという、逆の方向から見ざるを得ず、結局は循環論になることは事実である。だが、意味と統語特徴の両方を見ながら意味と統語特徴の相互関係を決定してゆかざるを得ない。